

第21回EBウイルス感染症研究会

第7回血球貪食症候群研究会

プログラム・抄録集

開催日 平成24年3月17日（土）12:30～19:00

会場 ベルサール八重洲 2階「Room A/B/C」

東京都中央区八重洲 1-3-7

八重洲ファーストフィナンシャルビル 2F TEL : 03-3346-1396

第 21 回 EB ウイルス感染症研究会

開 会 挨 拶

12:30~12:34

セッション 1 (基礎)

12:34~12:58

座長 藤原 成悦 国立成育医療センター研究所母児感染研究部

1. 新規抗ウイルス薬開発をめざした EBNA1 蛋白質機能阻害の戦略

神田 輝、鶴見達也(愛知県がんセンター研究所・腫瘍ウイルス学部)

野口耕司(慶応大学・薬学部)

2. EB ウイルス関連血球貪食症候群モデルマウスの作製と解析

今留謙一¹⁾、矢島美沙子^{1),8)}、新井文子²⁾、中澤温子³⁾、川野布由子¹⁾、大賀正一⁴⁾、森尾友宏⁵⁾、清水則夫⁶⁾、伊藤守⁷⁾、山元直樹⁸⁾、藤原成悦¹⁾

1. 国立成育医療研究センター研究所母児感染研究部、2. 東京医科歯科大学血液内科、
3. 国立成育医療研究センター病理部、4. 九州大学周産期・小児医療学、5. 東京医科歯科大学小児科
6. 東京医科歯科大学難治疾患研究所ウイルス治療学、7. 実験動物中央研究所、
8. 国立シンガポール大学微生物教室

セッション 2 (病態)

12:58~13:34

座長 岩月 啓氏 岡山大学大学院皮膚科学

3. 当院における生体肝移植後 EBV 関連リンパ増殖性疾患症例の臨床的検討

森谷邦彦、大内芽里、小沼正栄、新妻秀剛、内山 徹、力石 健、笹原洋二、

呉 繁夫(東北大学病院小児科)

川岸直樹、里見 進(東北大学病院移植・再建・内視鏡外科)

4. 小児生体肝移植後の EBV ゲノム定量モニタリングの重要性と免疫抑制剤減量に伴う EBV 特異的 CTL 誘導の検討

福田晃也²⁾、今留謙一¹⁾、川野布由子¹⁾、今井由美¹⁾、望月雅司¹⁾、山田千尋¹⁾、重田孝信²⁾、坂本靖介²⁾、笠原群生²⁾、藤原成悦¹⁾

1. 国立成育医療研究センター研究所母児感染研究部
2. 国立成育医療研究センター臓器移植センター

5. 成人発症 T/NK 細胞型慢性活動性 Epstein-Barr virus (EBV) 病は EBV 関連リンパ腫・白血病の前駆病態か？

磯部泰司、小松則夫 (順天堂大学医学部・血液内科)

瀬戸口靖弘 (東京医科大学・呼吸器内科)

伊藤嘉規 (名古屋大学大学院医学系研究科・小児科学)

木村 宏 (名古屋大学大学院医学系研究科・ウイルス学)

セッション3 (症例・疫学)

13 : 34 ~ 14 : 10

座長 森尾 友宏 東京医科歯科大学大学院発達病態小児科学

6. 一過性に Epstein-Barr virus のモノクローナルな増殖を認めたメトトレキサート投与中の関節リウマチの一例
國富あかね^{1,3)}、河村麻美子²⁾、辻本登志英²⁾、右京直哉¹⁾、直川匡晴¹⁾
日本赤十字社和歌山医療センター 血液内科 1)、集中治療部 2)、倉敷中央病院 血液内科 3)
7. 血球貪食症候群を合併し、腫瘍崩壊症候群様の経過をたどり死亡した慢性活動性 EB ウイルス感染症の 1 例
安井直子¹⁾、加藤元博¹⁾、森麻希子¹⁾、秋山康介¹⁾、関 正史¹⁾、高橋寛吉¹⁾、康 勝好¹⁾、
高野忠将¹⁾、田中理砂¹⁾、大石 勉¹⁾、花田良二¹⁾
埼玉県立小児医療センター 1) 血液・腫瘍科 2) 感染・免疫科
8. EB ウイルス関連疾患の皮膚科受診患者の予後に関する追跡調査
三宅智子¹⁾ 山本剛伸^{1,2)} 平井陽至¹⁾ 藤井一恭¹⁾ 岩月啓氏¹⁾
1. 岡山大学皮膚科
2. 川崎医科大学附属川崎病院

コーヒーブレイク

14 : 10 ~ 14 : 24

セッション4 (EBV-HLH)

14 : 24 ~ 15 : 00

座長 金兼 弘和 富山大学大学院小児科学

9. EB ウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症の抗体アレイを用いたサイトカイン解析
和田泰三、榊原康久、梅暁子、東馬智子、谷内江昭宏(金沢大学医薬保健研究域医学系小児科)
金兼弘和(富山大学医学部小児科)
10. Characterization of Epstein-Barr virus (EBV)-infected cells in EBV-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in two patients with X-linked lymphoproliferative syndrome type 1 and type 2
楊曦、西田直徳、宮脇利男、金兼弘和(富山大学医学部小児科)
和田泰三、谷内江昭宏(金沢大学医薬保健研究域医学系小児科)
今留謙一、藤原成悦(国立成育医療研究センター研究所母子感染研究部)
11. Treatment outcomes of Epstein Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in a single institution 当院で経験した EB ウイルス関連血球貪食症候群の後方視的検討
白石暁¹⁾、土居岳彦¹⁾、大賀正一¹⁾²⁾、石村匡崇¹⁾、瀧本智仁¹⁾、高田英俊¹⁾、宮本敏浩³⁾
安部康信⁴⁾、原寿郎¹⁾
1) 九州大学大学院医学研究院 成長発達医学分野、2) 九州大学大学院医学研究院 周産期・小児医療学
3) 九州大学大学院医学研究院 病態修復内科学、4) 九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学

“慢性活動性 EB ウイルス感染症(CAEBV)治療指針作成に向けて”

15:00~16:00

座長 脇口 宏 高知大学医学部小児思春期医学
 岡村 隆行 市立堺病院小児科

講演 澤田 明久 大阪府立母子保健総合医療センター血液・腫瘍科

2003年の本研究会でCAEBV診断指針を作成・公表しました（Am J Hematol, 80, 64-69, 2005）。

それまではそれぞれの専門家のあいだの共通認識で主に診断されていたと思われます。新たに客観性をもつ診断法が明文化された意義は大きく、一定の成果であったと思われます。

今後はより確実な治療指針が求められます。この2-3年、治療指針の作成を課題に据えて、一般演題・特別講演などのプログラムを組んできました。今回は、CAEBVの治療（幹細胞移植）経験が豊富な大阪母子総合医療センターの澤田明久先生に、「CAEBV治療指針（案）」とその中身を具体的に示していただきます。